

2022年5月25日(水)
国際芸術祭「あいち」組織委員会
電話：052-971-3111(代表)

国際芸術祭「あいち 2022」ラーニング・プログラム
愛知と世界を知るためのリサーチ
フグを起点に、環境問題や地政学、人類学、現代美術など
さまざまな分野を探求し学ぶことを提案するプロジェクト
『Fugu Gakko(河豚学校)』の参加者を募集します。

国際芸術祭「あいち 2022」では、幅広い層を対象とした様々なラーニング・プログラムを順次、実施します。

「愛知と世界を知るためのリサーチ」は、愛知にまつわる様々な事柄をテーマに取り上げ、我々が現在立っている場所について明らかにしながら、「世界とは何か」という謎に迫るリサーチをベースにしたプログラムです。

このプログラムでは、アーティスト等がリサーチリーダーとなり、公募による参加者たちとフィールドワークなどの活動を通して、様々な視点から愛知を発見するプロジェクトを実施します。

このたび、アーティストの Åbäke & LPPL をリサーチリーダーとした『Fugu Gakko(河豚学校)』を始動します。フグを起点に問いをたて、環境問題や地政学、人類学、現代美術などさまざまな分野を探求し学ぶことを提案するプロジェクトです。下記のとおり参加者を募集しますのでお知らせします。

1 『Fugu Gakko(河豚学校)』について

リサーチリーダー ^{アハ・ケアド・エル・ピ・エル} **Åbäke & LPPL** (アーティスト)

Åbäke と LPPL によるプロジェクト『Fugu Gakko』は、2003年にトルコ沖で不思議にもフグが見つかったことが出発点になっています。

「あいち 2022」ではイスタンブールで行なった「河豚学校」(2018年)を愛知にて展開します。フグを起点に問いをたて、環境問題や地政学、人類学、現代美術などさまざまな分野を横断しながら新たな視座を獲得することを目指します。話し合いやリサーチを重ねていくなかで、フグとは関係ないように思える事柄にたどり着くこともあるかもしれません。また、相互に学び合いながら、さまざまな素材やスキルを使って創作、芸術祭の会期中に展示空間が変化していく予定です。

2 参加者募集について

リサーチリーダー・Åbäke と共にフィールドワーク、リサーチ、ワークショップ、「あいち 2022」での発表に向けた制作や期間中のイベントなどに継続して参加できる方を募集します。

(1) 定員 10名 (要申込)

定員を超えた場合は、申込時にご記入いただく参加希望理由により選考を行います。

(2) 活動日

ア キックオフ・ミーティング

キックオフ・ミーティングでは、リサーチリーダーである Åbäke のこれまでの活動紹介と今回のリサーチプロジェクトについてのオリエンテーションを実施します。ミーティングの後半では、参加者の皆様とのディスカッションを予定しています。

日時：2022年6月12日（日） 午後2時から午後6時まで（予定）
オンラインでの開催

イ フィールドワーク&ワークショップ

日時：2022年7月2日（土）、3日（日）両日とも午前10時から午後5時まで
7月6日（水）午後7時から

ウ 制作活動

「あいち 2022」の会期中、愛知芸術文化センター8階の展示室にて、リサーチで発見した様々な素材を使って制作活動を行います。

※ 各日の集合場所、活動内容は、随時お知らせします。

※ Åbäke のメンバーである Maki SUZUKI が6月28日（火）から7月10日（日）まで愛知県に滞在し、リサーチ活動を行います。上記以外の活動日予定も後日お知らせします。

※ その他、制作活動についても決まり次第お伝えします。

(3) 参加条件など

- ・ **”Fugu Gakko” の活動では主な言語が英語となります。通訳はつきませんのであらかじめご了承ください。**
- ・ 10歳以上の方が対象です。
 - ※ 未成年の方は、ご参加いただく前に保護者の同意書が必要になります。参加決定通知と併せてご案内します。
- ・ フィールドワークの際（個人のリサーチ含む）に発生する交通費、食費、施設入場料等の諸経費は各自でご負担ください。
- ・ 活動中の様子を写真と動画によって記録します。記録した写真や動画はご本人の同意のもと、国際芸術祭「あいち 2022」の広報物や報告書等で使用する場合があります。

- ・活動にあたっては、参加者を被保険者として、国際芸術祭「あいち」組織委員会で団体傷害保険に加入します。

3 申込方法

国際芸術祭「あいち 2022」ラーニングメールアドレス (learning@aichitriennale.jp) に下記の事項を記載し、メールでお申し込みください。

メール件名は「Fugu Gakko」と記入してください。

(メール本文に下記の事項を記載)

- ・氏名 (ふりがな)
- ・年齢
- ・お住まいの地域 (市区町村まで)
- ・参加希望理由

申込み締切 : 2022 年 6 月 8 日 (水) 正午

※ 参加の可否は、申込み締切後にメールでご連絡します。

4 問合せ先

国際芸術祭「あいち」組織委員会事務局

(愛知県県民文化局文化部文化芸術課国際芸術祭推進室内)

住 所 〒461-8525 名古屋市東区東桜一丁目 13-2 愛知芸術文化センター内

電 話 : 052-971-3111 FAX : 052-971-6115

U R L <https://aichitriennale.jp/>

リサーチリーダー・プロフィール

Åbäke & LPPL (アバケ&エルピーピーエル)

Åbäke は、2000年にパトリック・レイシー、ベンジャミン・ライヘン、カイサ・ストール、マキ・スズキによって結成されたデザインユニット/コレクティブ。現在は、コペンハーゲン、ロンドン、ストックホルムにてそれぞれ独立した活動もしているが、協働して取り組むプロジェクトを多数展開する。ビジュアル・コミュニケーションとグラフィック・デザインの教育を受けたÅbäkeのメンバーは、主にアート、デザイン、建築、音楽、あるいはダンスという領域において活動した後、その手法を彫刻、パフォーマンス、展覧会制作、執筆、またはワークショップへと広げている。

2021年には東京のCLEAR GALLERY TOKYOにて「河豚学校 part1 2021」、また、ソフィ・デデレンとラディム・ペスコと協働し、東京藝術大学大学美術館にて藝大生と共につくり出した「Which Mirror Do You Want to Lick? (どの鏡を舐めたい?)」のキュレーションを行う。

LPPLは、2011年生まれのアーティスト。ロンドンにて在住、活動している。トロイカのプロトスタジオにて展覧会「Diplodocus」(2021年、ロンドン)を行う。



《Fugu Gakko》2021, CLEAR GALLERY TOKYO

リサーチリーダー・メッセージ

Hello! LPPL and Åbäke, in collaboration with Aichi Triennale, are looking for people who are curious to create and constitute a mini and temporary experimental Art school. We are interested in learning from each other, visiting skilled people, factories, workshops and machineries to understand what is made, how it's made, what's left over or out. In turn, we'll also make something by misusing what we've learned together!

こんにちは！ LPPL と Åbäke は国際芸術祭「あいち」と共同で、何かをつくりたいという思いを持った方や、小規模ながら実験的な臨時アートスクールに参加してみたいという方を募集しています。私たちが目指すのは、お互いから学ぶこと、そして熟練技術を持った人びと、工場、工房、機械などを訪ね見ることで、何がどのようにつくられているのか、また何が残されて、何が排除されているのかを理解することです。そして、一緒に学んだことを「誤用」することで、何か作品をつくりたいと考えています！

【参考】

「あいち 2022」ラーニング・プログラムについて

○リサーチ

世界のあらゆる表現と向き合うために、自分たちの立っている場所を知ることを重視し、芸術祭が開催される「愛知」についてリサーチするプロジェクトです。アーティストと公募によって集まった参加者が歴史・文化・生活などの観点から数ヶ月かけてリサーチし、その結果は芸術祭会期中に展示され、ワークショップ等を通してさらに発展します。

○レクチャー

芸術祭や愛知、美術や舞台芸術を、歴史的かつ批評的に捉えることで、多角的な視点から「芸術祭」にアプローチするレクチャーです。2021年から始まったこのシリーズは、アーカイブを公式 Web サイトで公開しています。芸術祭開幕後は、アーティストやキュレーター、キュレトリアル・アドバイザーによるトークやディスカッションも予定しています。

○ガイドツアー

来場者が様々な形で作品と出会う機会を作ります。作品解説や対話型鑑賞を通じて、作品の見方や理解、鑑賞体験を広げ、深めていきます。キュレーターやボランティアなどが日本語以外の言語や視聴覚に障害のある方々なども含め多様なニーズに合わせて「芸術祭」をガイドします。

○スクール・プログラム

芸術祭と学校現場をつなぐため、教育関係者向けの研修プログラムや、児童・生徒向けの団体鑑賞プログラムを用意します。

○ボランティア・プログラム

研修を通じて「対話型鑑賞」の手法を学んだボランティアが、来場者と対話的な鑑賞の機会を創出します。また、「会場運営」や「対話型鑑賞による案内」そして「ガイドツアー」など様々な活動を通して芸術祭を支えます。

「愛知と世界を知るためのリサーチ」とは

ラーニングの参加プログラム「愛知と世界を知るためのリサーチ」は、芸術祭の開催地である愛知という土地にまつわる様々な事柄をテーマに取り上げ、我々が現在立っている場所について明らかにしながら、「世界とは何か」という謎に迫るリサーチをベースとしたプログラムです。

その一つ『監督と学ぶ』は、「あいち 2022」の監督・片岡真実が、今回の開催会場となる地域を中心に、専門家や地域の方々をゲストに迎え、対談形式で歴史・文化・産業などを学んでいくシリーズで、動画を公開していきます。

二つ目以降は、アーティスト等がリーダーとなって、様々な視点で愛知を発見していくプロジェクトを実施します。リサーチリーダーと公募による参加者たちが、フィールドワーク、ワークショップ等、グループごとのテーマに沿って自由な形式で活動を展開し、「あいち 2022」の開催期間中にその成果を発表します。

詳しくは各プロジェクトのページをご確認ください。

<https://aichitriennale.jp/learning/index.html>